

要旨

メディア変容からみるゴルフのあり方と可能性

本論の目的は、メディア変容の視点を交えながら国内ゴルフの課題や今後のあり方、可能性について明らかにすることである。ゴルフ人口の減少やネガティブなイメージといった課題がある中で、メディア変容の視点を交えながら何が課題でどのようなアプローチで課題を解決できるかを論じる。

この目的を達成するために設定したリサーチ・クエスチョンは5つであり、それぞれ以下のようなことが明らかとなった。

RQ1は、「ゴルフはなぜ大人のスポーツか」である。その考察として、他のスポーツと比べ平均的な予算の高さ、移動の必要性があるといった地理的要因、会員制ゴルフ場という特性といったゴルフがもつ根本的な要因が大人のスポーツとしてのイメージを定着させていることが分かった。

RQ2は、「ゴルフの持つ課題とはなにか」である。その考察として、元来からの課題であるゴルフ人口の減少・高齢化・離反に加え、マナーを守らないゴルファーの増加やゴルフへの入り口の狭さなど新たな課題が浮き彫りになっていることが分かった。

RQ3は、「ゴルフはメディア変容に対応しているか」である。その考察として、SNSやYouTubeなどのソーシャルメディアにおいては様々なコンテンツの増加や視聴回数の増加、ゴルフに関するインフルエンサーの出現などからメディア変容に対応していることが分かった。しかし、渦中である新型コロナウイルスによるメディア変容においては、インターネット配信でのサービスの薄さなどをみると、対応は不十分であると言える。

RQ4は、「新型コロナウイルスはゴルフ離れを加速させたか」である。その考察として、新型コロナウイルスによってゴルフから離れた人が多く存在していたが、それに対し、リモートワークやリモート授業など、自分の時間が取れるようになったことでゴルフを継続した人・始めた人も増えたことが分かったため、新型コロナウイルスはゴルフ離れを加速させたとは一概には言えない。

RQ5は、「今後のゴルフのあり方はどうあるべきか」である。その考察として、老若男女問わずできるスポーツとしての価値を最大限にアピールし、誰もが気軽に携われるスポーツとしての価値をスナッグゴルフやフットゴルフ、「観る」「支える」ことでゴルフプレーヤー以外にもアピールすることがゴルフ人口の裾野を広げるきっかけになるため、積極的に行うべきということが分かった。